

## 九州北部におけるサケの捕獲例

木村 清朗

### Records of the Chum Salmon, *Oncorhynchus keta*, from Northern Kyushu

Seirô Kimura

(Received January 19, 1981)

Three males and 3 females of the chum salmon, *Oncorhynchus keta* (Walbaum), were collected from shore waters and streams in Fukuoka and Saga Prefectures in northern Kyushu. Their photographs, measurements, counts, dates of capture and localities are shown in this paper. All of the present specimens had attained maturity; especially the females caught in the Tamashima and Onga Rivers had eggs fully matured. In the basins of these rivers, it is said that almost every year a very small run of the chums had been observed in the Tamashima River before the 1950's and also in the Onga River before the 1920's. The Tamashima River, flowing through the northern territory of Saga Prefecture, is at present the southwesternmost record of the return of the chum salmon in Japan.

(Laboratory of Fisheries Environmental Science, Faculty of Agriculture, Kyushu University, Hakozaki, Higashi-ku, Fukuoka 812, Japan)

サケ *Oncorhynchus keta* (Walbaum)は、日本海側において、一般に山口県まで分布するとされているが、九州北部にも少数ながら来遊し(吉田・伊藤, 1957; 大島, 1957; 内田, 1960; 市川, 1977; 待鳥, 1978, 国分, 1978), かつては福岡県の遠賀川に溯上していたといわれる(中島, 1976)。しかし、九州で獲れたサケの標本を示した報告は内田(1960)以外にはないので、筆者が確認した捕獲例をここに記録しておく。

1. 全長 52.7 cm, 標準体長 44.1 cm, 体重 1.09 kg の成熟した雄 (Figs. 1, 2A; Table 1, No. 1): この標本は昭和 55 年 10 月 28 日早朝, 北九州市小倉北区馬島の菅義雄氏らが小型定置網によって 1 尾のみ漁獲, 北九州市魚市場の松宮房光氏を通じて九州大学に寄贈されたものである。体が小さく, 体高もやや低い。体側には暗色の雲状紋がみられ, 河川溯上直前の外観を呈する。精巢は発達し, 左右合せて 51.4 g になっている。消化管は萎縮して空虚であった。

2. 全長 77.7 cm, 標準体長 66.5 cm, 体重 4.17 kg

の成熟した雄 (Figs. 1, 2B; Table 1, No. 2): この標本は昭和 55 年 10 月 3 日早朝, 北九州市若松区脇田の亀津征久氏が, (株)電源開発若松火力発電所沖 200 m に設置した小型定置網により, 1 尾漁獲したものである。二次性徴が発達し始め, 両顎先端の歯は少し大きくなり, 上顎はやや前方に延びて曲りかけている。体側には雲状紋がみられ, 河川溯上直前の外観を呈する。精巢は発達し, 左右合せて 115.9 g。消化管は萎縮して空虚であった。

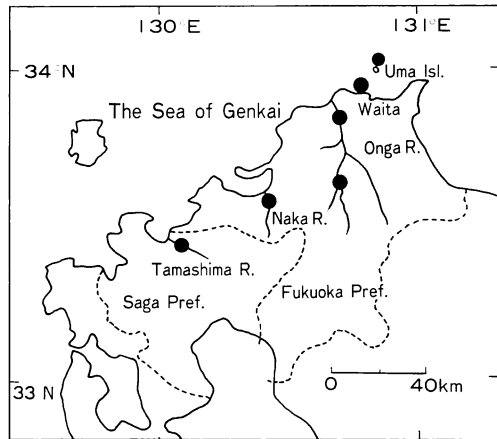


Fig. 1. Map of northern Kyushu. Solid circle indicates the locality from where the chum salmon were taken.

3. 全長 75.3 cm, 標準体長 64.1 cm, 体重 5.25 kg の成熟した雌 (Figs. 1, 2C; Table 1, No. 3): この標本は昭和 53 年 12 月 13 日, 福岡県遠賀郡水巻町の遠賀川の伊佐座堰下に合流する曲川で, 同町在住の千々岩敏之, 山川昇両氏が投網によって採捕したものである。遠賀川の上流にある嘉穂郡嘉穂町上大隈の鮭神社に魚体を供えた後, 氏子代表の大里司氏の御厚意により九州大学に寄贈された。二枚におろして塩蔵されていたため, 内臓と鰓はなくなっていた。卵粒は互いに分離し, サーモンピンクを呈して完熟の状態であった。

4. 全長 77.3 cm, 標準体長 66.3 cm, 体重 4.15 kg の成熟した雄 (Fig. 1; Table 1, No. 4): この標本は昭和 32 年 10 月 19 日昼頃, 福岡市博多区美野島地先を流れる那珂川の浅瀬で, 同市下月隈在住の宮本国弘氏が捕獲したものである。このサケの写真はすでに内田(1960)が公表している。体は銀白色で, 淡い雲状紋が体側に

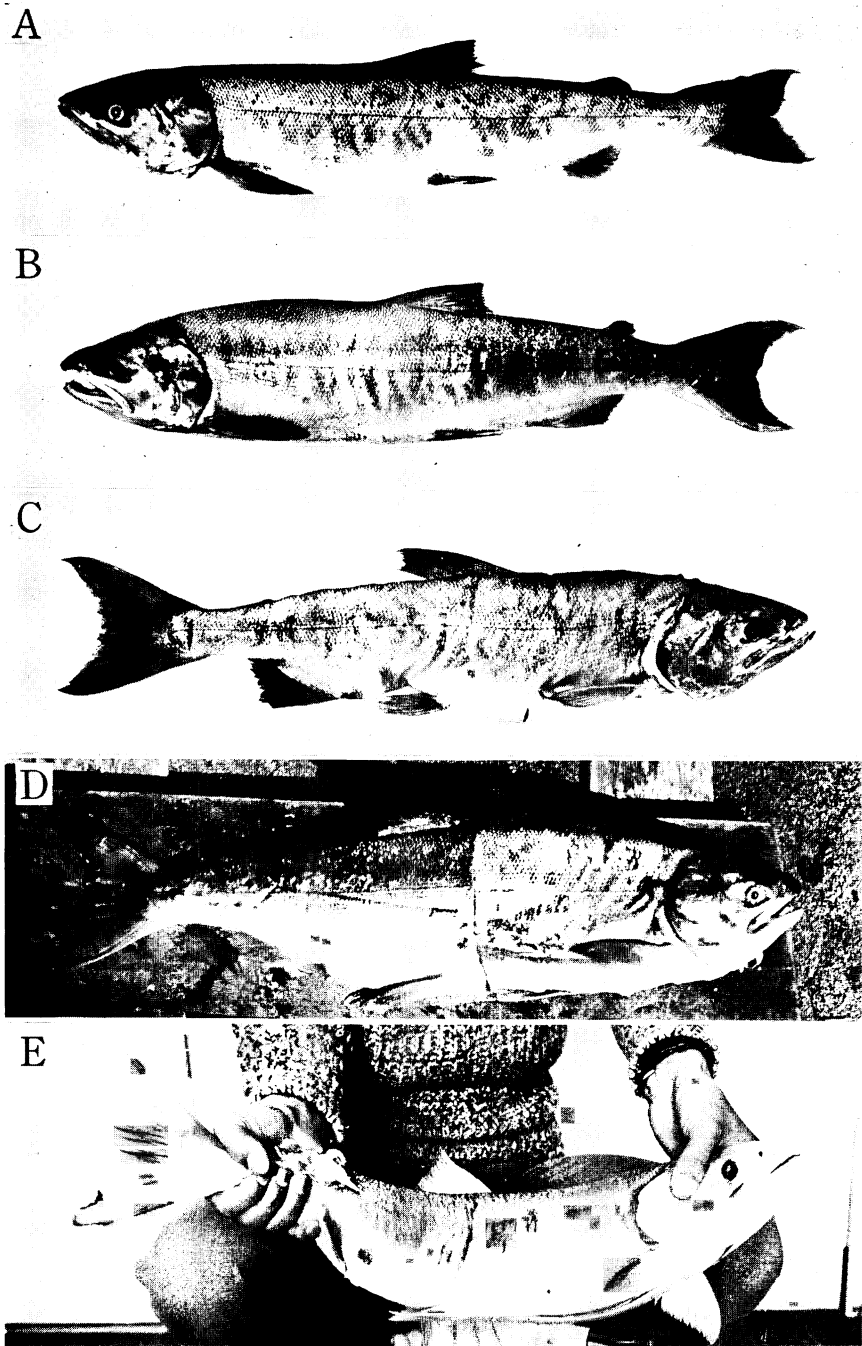


Fig. 2. Chum salmon, *Oncorhynchus keta*, from northern Kyushu. A: Mature male, 527 mm in total length (TL). B: Mature male, 777 mm TL. C: Mature female salted, 753 mm TL. D: Mature female salted, 727 mm TL. E: Mature female, 617 mm TL.

Table 1. Measurements and counts of chum salmon, *Oncorhynchus keta* (Walbaum), caught in northern Kyushu. All measurements are shown in mm.

Specimen number	1	2	3	4	5	6
Total length	527	777	753	773	727	617
Standard length	441	665	641	663	627	535
Body depth	94	156	149	158	—	125
Head length	120	181	174	177	152	134
Snout length	41	67	57	64	52	42
Length of upper jaw	68	104	98	106	—	72
Postorbital length of head	65	89	90	91	—	72
Interorbital space	44	64	—	63	—	42
Eye diameter	18	28	29	29	—	21
Depth of caudal peduncle	32	48	46	48	—	40
Height of dorsal fin	66	94	97	86	—	70
Height of anal fin	45	68	80	61	—	53
Dorsal fin rays	11	13	10	11	—	10
Anal fin rays	14	15	14	14	—	15
Scales on one row above lateral line	137	146	142	145	—	131
Scales above and below lateral line (above-below)	26-23	24-23	24-21	22-21	—	—
Gill rakers on first arch	8+13=21	9+14=23	—	8+14=22	—	8+14=22
Branchiostegal rays (left-right)	13-11	14-13	—	14-13	—	13-13
Pyloric caeca	162	154	—	—	—	—
Vertebrae	37+28=65	38+29=67	38+27=65	—	—	—
Body weight	1,086 g	4,170 g	5,250 g	4,150 g	—	2,230 g
Sexuality	♂	♂	♀	♂	♀	♀
Locality	Uma Isl., Kitakyushu- shi, Fukuoka Pref. (33°58'N, 130°52'E)	Waita Beech- Kitakyushu- shi, Fukuoka Pref. (33°56'N, 130°44'E)	Onga River, Isaza, Mizu- Fukuoka maki-cho, Fukuoka Pref. (33°50'N, 130°42'E)	Naka River, Minoshima, Fukuoka-shi (33°35'N, 130°25'E)	Tamashima River, Yanaba, Hamatama- cho, Saga Pref. (33°26'N, 130°05'E)	Honami River (Onga system), Tokuzen- cho, Iizuka- shi, Fukuoka Pref. (33°38'N, 130°42'E)
Date	Oct. 28, 1980	Oct. 3, 1980	Dec. 13, 1978	Oct. 19, 1957	Oct. 19, 1957	Nov. 3, 1926

認められる。両顎先端の歯は少し大きくなり、精巢もよく発達している。

5. 全長 72.7 cm, 標準体長 62.7 cm の成熟した雌 (Figs. 1, 2D; Table 1, No. 5): このサケは昭和 32 年 10 月 19 日, 佐賀県東松浦郡浜玉町五反田字築場の玉島川で, 同町在住の重瀬氏がタモ網によって採捕したものである。10 月 22 日に筆者がこのサケを確認した際, 魚体はすでに二枚におろされ, 塩蔵品になっていたため, 保存標本にはしなかった。やや体高が高く, 体側は一樣に銀白色。卵粒は互いに分離して, 完熟の状態であった。22 日の現場水温は 13.5°C。

6. 全長 61.7 cm, 標準体長 53.5 cm, 体重 2.23 kg の成熟した雌 (Figs. 1, 2E; Table 1, No. 6): この標本は大正 15 年 11 月 3 日, 福岡県飯塚市西徳前の遠賀川支流, 穂波川で獲れ, 飯塚小学校に保管されている。九州歯科技工専門学校の田中正太校長によれば, 当時小学 4 年の同氏らが向町橋 (現在の徳前大橋) 下の浅瀬でサケをみつけ, 附近の人が手掴みにしたといわれる。標本の尾柄部には, その際に受けた空気銃弾による傷が認められる。腹腔内の卵はほぼ完熟の状態に達している。

木村 (1954) は古代九州にサケが来ていたと推定して

いるが、上記の捕獲例から、現代においてもこの魚は九州北部に達することが明らかになった。中島(1976)は昭和10年頃までは例年、サケが遠賀川に溯っていたと述べ、産卵行動に由来すると思われる伝承なども紹介している。

次に、玉島川漁業協同組合の小柳徳松組合長および重氏ほかによると、昭和30年代始めまでは、毎年10月中下旬に少数のサケがこの川に溯上し、礫底の浅瀬で産卵していたといわれる。さらに、筆者は昭和30年秋にこの川で獲れたサケの鱗を佐賀県内水面漁場管理委員の松尾瘦竿氏より頂き、種類を同定をしたこともある。しかし、玉島川以西では今のところ捕獲の確証がないので、この川あたりが一応サケ来遊の限界と考えられる。この玉島川は、吉田・伊藤(1957)がサケの南限と認めた福岡県前原町の泉川より、少し西南に位置している。

御指導をうけた九州大学の内田恵太郎名誉教授、指導と原稿の校閲をたまわった同大学農学部塚原博教授、および標本の計測と撮影を許された飯塚小学校の津田順一校長に深謝する。

#### 引用文献

- 市川健夫. 1977. 日本のサケ, その文化誌と漁. NHKブックス, 日本放送出版協会, 東京, 242 pp., 24 figs.
- 木村圭一. 1954. アイヌ地名から見た古代日本の鮭の分布. 東北地理, 6(3): 1~8, 1 fig.
- 国分直一. 1978. 海上の道-海流・季節・風・動物をめぐって-. 国分直一編: 論集海上の道. 日本古代文化叢書, 大和書房, 東京, pp. 6~40, 11 figs.
- 待鳥精治. 1978. 本州日本海沿岸地方のシロザケ増殖と水温問題. さけとます, 20(33): 6~23.
- 中島忠雄. 1976. 遠賀川流域における鮭神信仰. 西日本文化, 123: 10~13.
- 大島正満. 1957. 桜鱒と琵琶鱒. 楡書房, 札幌, xii+79 pp., 41 figs., 1 pl.
- 内田恵太郎. 1960. サケの生活史. 自然, 15(11): 8~9, 24 figs.
- 吉田 裕・伊藤健生. 1957. 日本海の魚類相. 農林省水産講習所研究報告, 6(2): 113~122.

(812 福岡市東区箱崎 6-10-1 九州大学農学部水産増殖環境学講座)